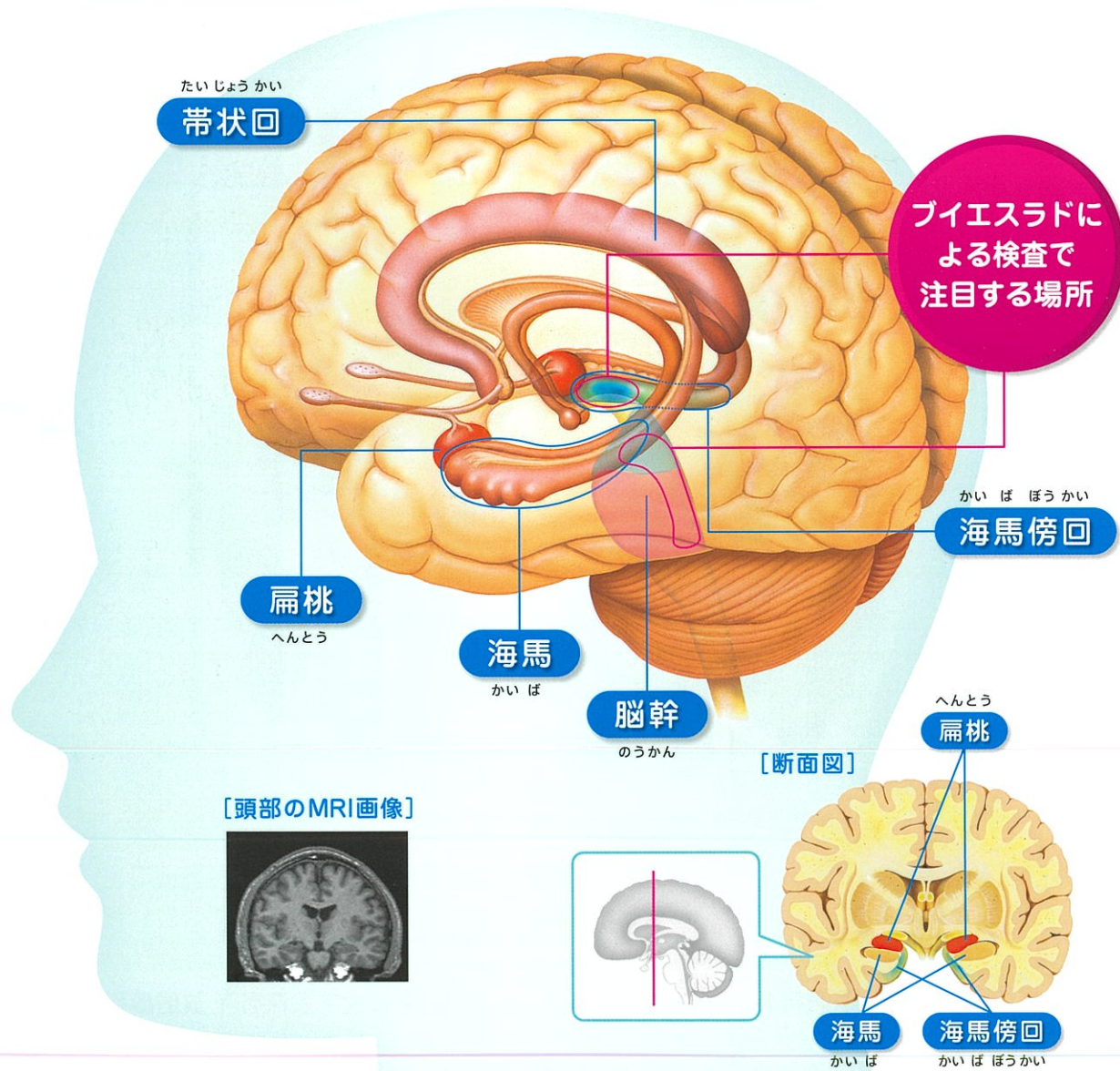


Question

ブイエスラドによる検査とは、
どのような検査なのですか？

A. MRIで撮影した脳の画像情報をもとに、
海馬傍回付近等における脳の萎縮の
度合いを検査するものです。

* 海馬傍回とは、記憶の形成・保持・再生をつかさどる領域です。
非常に小さな領域で、海馬の周辺に位置しています。



よくあるご質問

Q. なぜ海馬傍回付近をみるのでしょうか？

A. アルツハイマー型認知症では、海馬傍回付近の萎縮がもっとも早期にみられるためです。

Q. なぜ背側脳幹をみるのでしょうか？

A. アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の脳の萎縮を比べた場合、レビー小体型認知症では背側脳幹の萎縮がみられることがあるためです。

Q. どのように脳の萎縮をみるのでしょうか？

A. MRIで撮影した頭部の画像データと、あらかじめ用意しておいた健康な脳の画像から作ったデータをコンピューターで照合・解析し、脳の萎縮の度合いを測ります。
海馬傍回付近は非常に小さく、目で萎縮を確認することが難しいのですが、この検査ではコンピューター解析により確認できます。

Q. 簡単に検査できるのでしょうか？

A. 患者様は頭部のMRI画像を撮るだけで検査できます。通常のMRI検査の一環として行うことができ、検査中の痛みはありません。食事制限等もなく、検査前後も普段通りに生活できます。

注意

ブイエスラドによる検査は、あくまで脳萎縮を客観的に評価する検査です。海馬傍回付近や背側脳幹に萎縮がみられても、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症とは限りません。症状、経過や他の検査結果などとあわせて総合的に診断してもらうことが大切です。